


# 御前山ビオトープ通信

平成21年12月6日

第26号

編集： NPO「美しい田園21」 清野   
 メール：[denen21@hb.tp1.jp](mailto:denen21@hb.tp1.jp)  
 ホームページ：<http://w01.tp1.jp/~a071771011/>

【案内図】



## 目次

- 1 収穫祭と間伐作業
- 2 県南視察旅行

## 1 収穫祭と間伐作業

11月5日（木）に今年第2回目の「ビオトープ育成作業」を行いました。併せてビオトープ田んぼの脱穀作業と収穫祭を行いました。

今回は、茨城県森林湖沼環境税を活用した「元気の森林づくり事業」の補助事業の採択を受けて、第1回目の間伐作業等となります。

午前9時半には遠くは東京、埼玉を含めて100名近いボランティアが集合し、長山会長の挨拶、作業説明の後、それぞれの作業分担を行い早速作業開始です。

間伐作業はチェーンソーの台数から5班に分かれ、各班4人から5人の構成でエリアを分けて入山しました。急斜面での作業、ヒノキが多く枝が強いので、かかり木も多く、かなり大変な作業でした。平成17年度から3年間ビオトープ直近だけは「フタバアオイ」や「イヌショウマ」の日照改善のために間伐を実施しており、今回と併せるとかなりの範囲が整備されたこととなります。今回は伐採だけで、枝葉を数か月残して水分を除去する「葉枯れ乾燥」をしてから来年の2月頃に玉切りして、木道などに再利用する予定です。

植物班は湿地と林間に分かれて、移植植物周辺の選択除草を行いました。今回は茨城大学の学生や教官なども初参加していただき、1時間くらいでスッキリとしました。

遊歩道班は間伐材を活用して、林間のフタバアオイの群落まで間伐材を活用して階段工を整備しました。また、奥の部分の本格整備は次回以降ですが、歩きやすいように刈り払いも行い、

作業後



間伐作業





子供でも楽に歩けるようになりました。昼食は収穫祭を兼ねて、芋煮、オニギリ、漬物など地元の食材が差し入れされました。また、お土産に野菜なども沢山いただきました。



ダム直下流ではちょうど鮭の遡上が最盛期。那珂川では橋の上から大群がジャンプするところも観察できました。支流の相川では手の届く目の前に大きな鮭が勢いよく泳いでいました。感動！！

## 2 県南視察旅行

御前山ダム環境センターは今年発足しましたが、11月1日（火）、今後の活動の参考とするために、常陸大宮市のバスを使用し、参加者は約30名で県南の視察旅行を行いました。

最初は坂東市にある「茨城県自然博物館」で、県内各地の里山活動の支援も行っており、学芸員の案内で二年前にセミナー方式でボランティアにより共同製作した炭窯などを視察しました。竹の見本林ではそのまま食べられる筍があったり、たまたま企画展で「野菜王国」もやっており、皆興味を持って熱心に質問していました。

通称「ミュージアムパーク」といわれ、茨城県の施設ですが、職員だけでなく多くのボランティア活動によって運営されており、当日も地元「七郷里山の会」が竹林の整備作業を行っていました。

その後、守谷市の「市民交流センター」に移動して昼食をとりながら「立沢里山の会」の活動紹介を受けました。

大規模な都市開発が行われたことから、残された自然を保全するというよりは、耕作放棄地やゴミ投棄などで危機的な



守谷交流センターで立沢里山の説明



状態となった里山を再生するところからスタートしたこと、行政からの補助はなく完全にボランティアだけで運営されていること、守谷市内では10近い団体が各地で類似した活動を行っており、守谷里山ネットワーク（清野修代表）を構築して連携協力しながら活動を支えあっていることなどの説明がありました。

現地は、天気にも恵まれ里山日和、湧水、上総掘り、土手道などニュータウンの中とは思えないのどかな風景を散策しました。陽気に誘われて池には沢山のメダカが泳いでいたり、ゴミの不法



投棄や外来種の放置など都市部特有の課題もあることが解りました。ちなみに木道の杭は数年前、御前山の間伐作業に参加した際に運んできたものです。

最後は、立沢里山の会も協力して整備された「ホテルピオトープ」があるとのことで、すぐ近くのアサヒビール「守谷工場」へ。残念ながら工事中で中に入ることはできませんでしたが、廃棄物の再生資源化など企業における環境保全の取り組みも学習することができました。

